

厚生労働省行政事業レビュー外部有識者会合 議事概要

日 時：平成 26 年 10 月 29 日（水）15：55～16：45

場 所：厚生労働省大臣官房会計課会議室

厚生労働省：大臣官房会計課長、会計企画官

外部有識者：井出委員、栗原委員、長崎委員、増田委員、横田委員

冒頭、厚生労働省（会計企画官）から平成 26 年度行政事業レビューの点検結果について説明

以下、行政事業レビューシートの書面審査、公開プロセス、及び翌年度の取組に向けた改善点についての外部有識者の発言とやりとり

○井出委員

行政事業レビューの書面審査については、こちらの意見が概ね反映されている。

昨年も書面審査を経験しているが、今年は複数の方で細かく見ることができたのではないかな。特に、他の先生方の意見を見ることができたのはよかった。いろいろな視点があった参考になった。今後も 5 人くらいの目線で点検するのがよいのではないかな。

公開プロセスで対象とした事業はどうなっていくのか。公開の場では説得力のある厳しい意見も出ていた。反映状況を見て対応できていると評価できるところもあるが、もっと対応できるのではないかと個人的に思うところもある。

書面点検については、もう少し確認する時間があればよかったと思う。

○栗原委員

公開プロセスについては、予定された論点から離れた大きな課題に議論が及び、議論の焦点が曖昧になる場面があったため、最終的に議論する論点の絞り込みとそれを共有することが有意義である。

公開プロセスでの「廃止」に関し、各委員の間で、対象事業に対する評価が相違することとは問題ないが、評価基準にズレがあったことについては解消すべきである。

書面審査については、総じてアウトプット、アウトカムが点検されており、プロセス自体に有意義があると思う。しかしながら、アウトプットやアウトカムの定量的な把握が難しい事業や、事業実施年度でアウトカムが現れづらい事業もあり、定性面も交えて評価する等の柔軟性があってよいのではないかな。

他方、アウトプットが把握されて然るべき事業で、把握できていない事業も散見された。特に継続的な事業は、途中段階で成果を確認していくことが大切である。より効果的・効率的な事業にしていくなために、事業効果を把握しながら進める事が望ましい。

また、ある政策目標を達成するために、事業を複合的に組み合わせて実施していくことも多く、また類似する事業も存在すると思う。その場合、全体像が見えないまま、特定の事業だけに着目して有効性を評価することには、限界があると感じた。政策に関連する事業を洗い出し関連施策全体をレビューすることが最も効果的だと思われる。

○長崎委員

全体としてどの事業も必要性があり、無駄と思えるものはなかったが、なかには過去の執行率が低い事業があった。国の予算が限られている現状を考えると、低い執行率は、翌年度に向けて見直す際のひとつの基準として、必要な視点になると考える。私自身、そういった視点で点検をしており、反映の方もしていただいたと感じている。

全体としてもしっかりと対応していただいている。

○増田委員

公開プロセスについて申しますと、行革事務局の方で選定された委員の方々はまず否定から入ってきて、進め方についても議論の展開がなく評価の平均値を出すというものだったので、有効な協議ができていなかったと思う。消化不良という感じが残ってしまった。意見交換のやり方がもっとあったのではないか。4段階の評価から点数配分によりひとつの評価を決めるやり方では、評価が分かれた時に平行線のまま終わってしまう。

また、公開プロセスで取り上げた案件自体が議論の深まるテーマだったのか疑問が残る。

書面審査については、時間的な厳しさがあった。もう少し時間があればやりとりをしながらじっくり見ることもできた。資料から事業の内容を把握し難いものもあったので、より深く理解するために時間が欲しかった。次があれば、点検期間に余裕をもっていただきたいと思う。

○横田委員

書面審査においては、レビューシートへの追記の検討などについてコメントさせていただいたが、本日の資料を見てもフィードバックされているものがあり、反映していただけたと感じる。

公開プロセスについては、「廃止」に対する尺度の差がたいへん気になった。委員によっては、事業の重要性は理解しながらやり方を変える必要があるという時に、「廃止」を選択するケースが目立った。他方で、「廃止」によって事業継続が難しくなることへの懸念があって、「廃止」という言葉が一人歩きすることへの攻防に終始してしまったと感じる。委員の間で評価の基準を共有することが必要だったのではないか。その一方で、議論のなかでは、提案型の有効な意見もたくさん出ていたと思うので、参考にさせていただけるものもあったのではないか。

書面審査においては、事業概要の記載が不足しているものが一部あった。全般的にはア

ウトカム・アウトプットの設定の仕方についてコメントさせていただいた。その他には、類似事業の欄がほとんど書かれていなかったのが気になった。1事業では評価し難いものもあり、関連事業を列举することを検討していただきたい。また、継続していくべき事業であっても、最終目標に向かって、どこかで期限を区切って目標の達成度を評価していくことが必要である。その点で、終了年度の記載を積極的に推進することは効果的だと思うので、少しでも検討して欲しい。

○増田委員

全体の事業を見渡してみると、類似する事業があるのではないかと思うものもある。ジェネリック薬品の普及促進など、部局をまたがっていて、どこかで同じような事業を見たのではないかと思うことがあった。関連する事業について記載があると、全体像が浮かんで分かり易くなると思う。レビューする事業は細切れになっていて分かり難いということは確かにあった。全く同意する。

○厚生労働省（会計課長）

今のジェネリックの話については、一般の医療分野において保険者に努力を促す広い取組もあれば、生活保護の医療扶助において国民負担の点からより強く働きかける取組もある。局面を変えて見れば複数部局にまたがっているととらえられるが、どこまでを関連事業とするかはケースバイケースである。

○厚生労働省（会計企画官）

ここまでの先生方の意見を聞いて、シートに記載している情報が少ないという先生方からのメッセージであると受け止めた。部局に対して改善を促していきたい。

○栗原委員

シートの記述に関して感じたことがひとつある。補正予算を組めば、その事業は当初と補正後で目標が変わってくると思う。当初と補正後に分けて目標設定をする仕組みが必要ではないか。これは全府省共通の様式についての課題かもしれない。

○厚生労働省（会計企画官）

目標の設定に関しては、国が達成すべき本質的な数値目標とは因果関係が離れているような類の事業もあって、事業によっては定量的なアウトカム・アウトプットを立てることが難しい場合がある。

○栗原委員

時間の問題として、短期的に成果がでる事業もあれば、長期的かつ複合的に成果が現れ

る事業もあると思う。近視眼的にならないように注意する必要がある。定性的な指標をもとに評価する柔軟性があってもいいのではないか。

○横田委員

点検したアウトカムの中には、会議１回開催したことをもって目標を１００％達成できたとしている事業があったが、これはさすがに了とは言い難いのではないか。

○栗原委員

公開プロセス対象事業の反映状況について具体的にうかがいたい。４１３の「中小零細規模事業場集団へのリスクアセスメント研修等実施経費」、６３１の「両立支援助成金（子育て期の短時間勤務支援）」が担当部局での反映結果として「廃止」になっているが、どういった経緯があったのか。

○厚生労働省（会計企画官）

４１３については、構成する３事業のうち、公開プロセスで厳しい指摘の多かったリスクアセスメント研修を廃止し、残りの２事業を縮減しつつ残すので、一部廃止という理解である。６３１については、類似の関連助成金に整理統合したことによって単一の事業としては「廃止」と区分されたものである。

○厚生労働省（会計企画官）

先生方にあらためて感謝を申し上げる。今夏、レビューの取組においていただいた所見については、全部ではないが、概算要求への反映に努力している。厳しい財政事情の下では、こうした手続きを踏まないと予算規模が縮減していかない。この取組が予算を見直す大きな契機になっている。今回いろいろとご指摘をいただいたが、事務的に対応が可能かどうか検討していく。

○厚生労働省（会計課長）

時間が限られたなかで対応いただき感謝している。いろいろな視点から丁寧なコメントをいただいた。概算要求の過程において、いただいた様々なご指摘を可能な限り反映させてきた。年末に向けた政府予算案の編成過程においてもしっかりと対応していく。

私ども、予算確保に非常に大きな労力を費やすため、予算を効果的、効率的かつ適正に執行することへの目配りが不足しがちになる。厚生労働行政は国民の暮らしに密着しており、国民の期待も高く、目線も厳しい。それに応えていくためには、事業を見直していくための不断の取組が欠かせないと思っている。今回いただいたご意見等もたいへんありがたいものである。今後も、行政事業レビューの取組を予算編成に活かしていくので、よろしく願います。